

健診検査センターニュース

No.594 号

運営委員会より

6月19日（火）平成30年度第3回の運営委員会を開催いたしました。

1. 特定健診5月の受診者数は、下記のとおりでした。

	5月受診者数（前年比）	累 計（前年比）	函館市国保受診率 5月現在 0.01% / 目 標 30.0%
函館市国保	3人（△5人 37.5%）	3人（△5人 37.5%）	
後期高齢者	3人（△4人 42.9%）	3人（△4人 42.9%）	
その他	87人（2人 102.4%）	132人（△12人 91.7%）	
合 計	93人（△7人 93.0%）	138人（△21人 86.8%）	

実施機関：32件／登録機関102件

2. 30年5月の健診検査事業収益は、下記のとおりでした。

	5月（前年同月比）	30年度累計（前年比）
一般検査収益	107.2 %	104.8 %
健診収益	116.9 %	124.0 %
合 計	111.0 %	110.9 %

～講演会開催のご案内～

6月より特定健康診査が始まっておりますが、特定健康診査の受診率向上を図るため、当医師会と函館市の主催により、次のとおり講演会を開催いたします。

日 時：平成30年7月7日（土）

午後2時から4時まで（会場午後1時）

会 場：函館市中央図書館 視聴覚ホール

（函館市五稜郭町26-1）

講 師：東北大学大学院 医学系研究科公衆衛生学分野

教授 辻 一郎 先生

テーマ：「特定健康診査の効果について

—10年間の成果と今後の展望—」

座 長：函館市医師会理事 平山 繁樹 先生

《 ちょっと一言 》

サッカーワールドカップ観戦で睡眠不足の方もいるかと思いますが、日常業務に差し支えない範囲でお楽しみ下さい。

日本産科婦人科学会が6月23日にヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン接種の積極的勧奨再開を求める発表をしました。接種後に慢性疼痛や運動障害などの「多様な症状」が報告され、その後「積極的な接種勧奨の差し控え」が続いているワクチンです。積極的勧奨再開を求める背景には、2015年に名古屋市で7万人を対象に行われた疫学調査の結果、HPVワクチン接種と「多様な症状」発症との関連なし、という結果を受けてのことだと思えます。

今の日本で子宮頸癌が問題になるのは「出産前に癌になる危険性が増加」していることです。少なくとも昔の日本では女性が性交渉を始めるのは結婚してから、という時代が長く続きました。また結婚するとすぐ妊娠を希望するケースが多かったため、初性交から数年以内に出産する女性が多数派でした。仮に初性交でHPVに感染しても癌になる前に出産してしまっている方が多かったのです。ただし出産後に幼子を残して子宮頸癌で亡くなるお母さんはいました。

最近の若者は、初性交で妊娠を希望する人は稀です。また出産希望年齢はどんどん上昇し、要するに初性交から第1子出産までの時間が半端なく長くなっています。そうすると、出産前に子宮頸癌になってしまう例が増えるのは当然といえば当然です。そんな日本の現状にワクチンは福音だっただけに、「接種勧奨の差し控え」はとても残念なことです。

また最近では中咽頭癌のHPV検出が報告されています。背景にはオーラルセックスの流行があることは疑う余地なしです。そうなるこのワクチンは男性にも打った方が良いということで、オーストラリアやカナダでは男子にも接種しています。女性が子宮頸癌になるのは男性からHPVをもらうからです。某故人の俳優さんで3度結婚し妻は全員子宮頸癌という強者もおられました。

（文責 小葉松 洋子）

検査内容変更のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
この度、下記の検査項目におきまして、検査内容を変更するとの連絡が外部委託先からあり
ましたのでお知らせいたします。

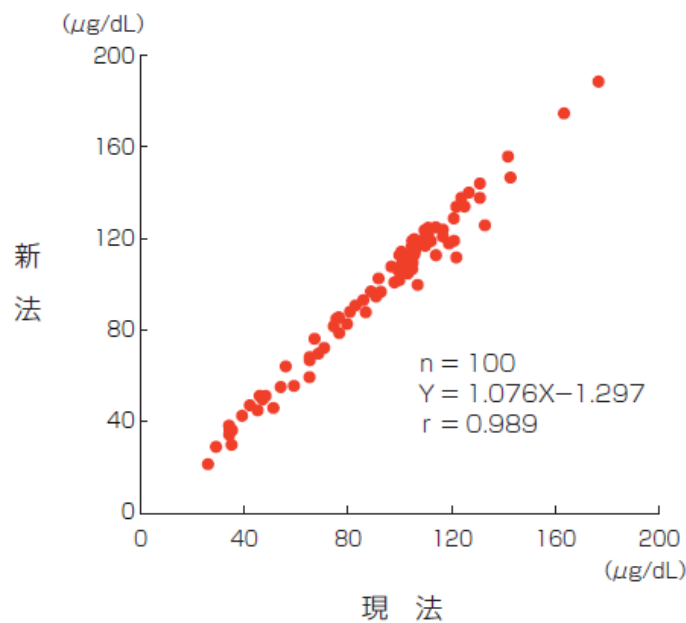
何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

変更日：平成30年7月5日（木）受付分より

変更項目：1178 Zn（亜鉛）

変更内容	新	現
検査方法	比色法	原子吸光分析法
基準値	80~130 ($\mu\text{g}/\text{dL}$)	65~110 ($\mu\text{g}/\text{dL}$)
報告範囲	5未満、5~99999999	10未満、10~99999999
備考	自動化試薬に変更となります。 新基準値は文献値となります。（亜鉛欠乏症の診療指針 2016）	

▼新法と現法の比較



公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail: info@hma-labo.jp